

## 頭部の打撲について

頭は丸い球のような形をしており、ぶつけた部分は、平らではありません。また、脳脊髄液という液体の中に脳が浮かんでいるという、他にはない特別な環境です(厳密には、くも膜梁柱という細かい組織で支えられています)。

私は、もっぱら見るのが専門ですが、サッカーボールを蹴ったところを想像してください。蹴り方によって、①ボールが回転しないで飛んでいくもの(まっすぐな力)、②くるくると回転しながら曲がって飛んでいくもの(回転する力)があります。

頭は、首がありますから転がることはありませんが、実はボールと似たような現象が脳にも起こるのです。脳は「おとつぷ」のように柔らかく、頭の骨は厚く硬いものです。外から力が加わると骨は硬いため、その力が脳にかかります。脳に①のような力がかかると、脳内、その周りの膜や血管に傷がつかます。②のような力がかかると脳にねじれが加わり、脳内や脳の外に出血を伴うことは少ないにしても、神経が広い範囲に渡って切れ、頭のCT、MRI写真では、たいしたことになくても意識や状態が悪いくともあります。

頭を打った時にぼーっとしたり、ふらふらするのは、こういった脳が受けた外力によるものなので、必ず検査を受けることをおすすめします。

赤ちゃんは、すぐ泣いたり、きげんがよく、ミルクや食事がとれていれば心配ないことが多いですが、頭の骨が柔らかいため、骨がへこんだり、ひびがはいることがあり、成長とともに、そのひびが大きくなることもあるので注意が必要です。ご心配の方は、打撲時は問題がなくても、1〜2ヶ月して脳と骨の間にゆっくりと血液がたまってくることもあります(慢性硬膜下出血)。

頭部の打撲後、特に二四時間以内は何が起きるかわかりません。痛みが継続したり、吐き気、ふらつきなど、いつもと違う何かを感じたら、いつでもいらしてください。外傷は、2〜3分で検査出来るCTでの迅速な診断が重要であり、当院ではそれが可能です。気軽にご相談ください。



脳神経外科  
田村クリニック  
南大沢メディカルプラザ  
いなじ ただよし  
稲次 忠介

日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医  
日本脳神経血管内治療学会認定専門医